

住民に犠牲を迫る 空港工事は もうやめろ！

NAA・森中社長の年頭発言弾劾！



成田空港会社の森中小三郎社長は、1月1日付千葉日報で「年間発着回数 30 万回で地元と合意した」として、「決断いただいた騒音下のみなさまに心より感謝」などと述べています。

騒音下の住民が「年間 30 万回」を認めたなどというのは真っ赤なウソ。「絶対反対！ 許さない！」——これが住民の叫びです。

森田知事や首長、そのとりまきとの談合の結論を「地元合意」など言いなして、住民にどんどん犠牲を迫るのは空港会社の常とう手段。黙っていれば「年間 30 万回」どころか「24 時間空港」も避けられません。

このような無謀と場当たりの航空建設の象徴が、いま天神峰で進められている 3 本目の誘導路工事です。完成すれば「年間 30 万回」が可能になると言って、住民にとって大切な成田市道を暴力的に封鎖して工事を始めました。

ふたたび農地を力を取り上げ、農家に移転を強要しようという動きが顕著です。私たちは、際限なく住民に犠牲を強いる「年間 30 万回」とそのための第 3 誘導路建設に反対して闘っています。

成田の軍事基地化と 農業つぶしの TPP に反対します

反対する理由はこればかりではありません。韓国・延坪島（ヨンピョンド）の砲撃戦で、戦争の危機が現実化する中、成田の軍事化が進められているからです。成田空港は朝鮮有事の際に、米本土から押し寄せる 50 万米兵・物資の中継拠点として位置づけられているのです。

騒音による生活破壊、軍事のための空港拡張、労働者の首切りと TPP（環太平洋経済協定）による農業つぶし！ 今年こそ、これらの政治に断を！ ともに闘いましょう。

(1月5日)

成田国際空港
発着30万回へ段階的に拡大

成田国際空港は北米、ヨーロッパ、アジア、オセアニア、中東方面とハブの取れた国際航空ネットワークを誇る。日本にとどまらず東アジア地域の国際拠点空港であり、事実上、ハブ空港の機能を果たしてきた。現在22万回の年間発着回数は、30万回が地元との間合意されており、一層のネットワークを拡大し、国際化された成田空港は、旺盛な需要を基盤に国際化した成田空港にも必要で競争力を強化しながら国際拠点空港の役割を今後も果たしていく。

これが説明会に怒る
住民の声だ！

↓↓↓↓↓
「30万への増便は騒音の拡大」
「住民が犠牲の上の発展はいら
ない」
「子らに住み続けろとは言えない」

(10/13 TBSニュースから)